

「連携」「共有」 「チームづくり」

リオデジャネイロオリンピック
陸上競技日本選手団監督
山梨学院大学スポーツ科学部教授
麻場 一徳 氏



教育随想



平成 28 年 11 月 1 日

11 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
リオデジャネイロオリンピック 陸上競技日本選手団監督 山梨学院大学スポーツ科学部教授 麻場 一徳氏	
この人に聞く……………	2
鈴木製麺所代表 鈴木 健平氏	
羅針盤……………	2
保健体育科指導員 浅井 貞人	
ふれあい……………	3
矢作北中 青木 佑吏	
特集……………	4
子供の笑顔を支え続けて ハートピア岡崎 (竜美・上地)	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
縄文土器の野焼き (昭和 61 年)	
この本を……………	8

今夏のリオデジャネイロオリンピックに陸上競技日本選手団監督として参加してきました。

数々の素晴らしいパフォーマンスを発揮した日本選手団の中で、陸上競技では、リレーの銀メダル獲得で日本中が沸きました。男子四〇〇mリレーのメダル獲得自体は、二〇〇八年北京オリンピックでの銅メダル以来二度目ですが、今回、短距離大国と言われるジャマイカ、アメリカと互角に渡り合い、両国に割って入る結果を残したことに大きな価値があったと思います。四〇〇mリレーは一人一〇〇mずつ四人でバトンをつないで走るリレーですが、一〇〇m九秒台を四人揃える両国と比較して日本の四人はまだまだ走力に劣ります。それを巧みなバトンパスワークで補い、チームワーク良く銀メダルを獲得できたのです。私は、このような戦い方が、体格・体力に劣る日本選手が世界大会で好成績を取るための方法だと信じています。

今回、私は監督として、「連携」と「共有」というテーマを掲げて大会に臨みました。「連携」とは、それぞれの役割を超えてお互いに補い合う体制を作ること、そして「共有」とは、

情報の共有、戦略・戦術の共有、プロセスの共有を図ることです。陸上競技そのものは個人競技ですが、世界の舞台は個人の力だけで戦うには壁が大き過ぎます。つまり、それをチームの力で団結して乗り切ろうというものでした。それがうまく機能し、男子五〇km競歩では荒井広宙選手が一度は失格と判定されながらも、チームスタッフが連携して対応することでメダルを取り戻すことができました。私は、普段は大学生アスリートに陸上競技を指導しています。日頃から彼らに一貫して伝えているのはチームづくりの大切さです。個人競技であるものの、そのパフォーマンス向上に取り組む過程では仲間やサポートしてくれる人たちの存在が不可欠です。つまり、一人で乗り越

えるには厳し過ぎるのが競技の世界なのです。皆が高みを目指し、切磋琢磨しながら活気ある毎日をご過ごすことのできるチームに属せば、個々の成長は推して知るべしです。

スポーツ集団の場合では特に、個人のパフォーマンス向上の取り組み以前に、集団の質を高める取り組みとそれに貢献する個々の意識と行動がチームづくりにおいてとても重要だと、私は考えます。

(あざば かずのり)





学校給食を支え続けて

鈴木製麺所代表

鈴木 健平 氏

ソフト麺といえは、学校給食で人気のある献立の一つだ。正式名称は「ソフト式スパゲティ麺」といい、岡崎市の学校給食で食べられ始めて五十年が経つ。昭和三十六年から今日まで、子供たちが大好きな献立の一翼を担ってきたのがソフト麺だ。

「パンと同じ粉を使用して、うどんとスパゲティの中間の麺を作ります。加水量や塩加減、滅菌の時間や温度などは、定められた規格通りに正確に行わなければなりません。学校給食は子供たちの健康に直接関わりますから、神経をつかいます。」

鈴木製麺所は、鈴木さんの父親が

開業した。様々な麺を作り、町の飲食店や八百屋に卸していた。

「小学生の頃から、自転車の荷台に麺を積み、配達の手伝いをしなくてはなりませんでした。遠くまで自転車をこぐので、足腰は鍛えられました。が、私は、この商売が嫌でした。学校を卒業すると、父に認めてもらい、家を継がないという誓約書まで相手の会社に提出して、長男でありながら、機械設計の会社に就職しました。」

就職して数年後、ソフト麺の学校給食導入とともに転機が訪れた。

「給食用のソフト麺を作ることになった市内三社のうち一社がうちでした。製造量や作業の負担が一気に増えました。準備段階で、後継者候補の従業員が辞め、父からどうしても手伝ってほしいと懇願されました。決心して就職した会社でしたが、そのときはなぜか、学校給食に携わることに対して、楽しみに似た気持ちが大きく、迷いに迷いました。子供たちと関わることが魅力的に思え、背中を押され、決心しました。」

製麺所の一日は、朝四時の仕込みから始まり、深夜にまで及ぶ。

「毎日三時には必ず目が覚めます。粉を量り、こねて、伸ばして、様々な作業を経て配送できるまでに丸一日かかります。多いときは、給食だけ

で一日五千食以上の麺を配送します。何事もなく無事に配送し終わると、ほっとします。」

「学校へ保温箱を回収に行き、子供たちに『ソフト麺、おいしかったよ』と言われると、何よりうれしくなります。おいしく食べてもらうことが、私の喜びであり、誇りです。」

現在、愛知県内の製麺業者の数は減少の一途にある。岡崎市内でも学校給食指定工場は二社となった。

「時間的にも体力的にも大変です。従業員を雇えば採算が取れません。仕事場に立つと、健康に働ける喜びをかみしめます。長く続けたいです。待っている子供たちがいますから。」

給食の時間に配られたソフト麺はまだ温かい。子供たちを思い、仕事に向かい続ける鈴木さんの背筋の伸びた後ろ姿がそこに思い浮かぶ。



氏名 鈴木 健平
生年月日 昭和十六年十月十四日
住所 岡崎市明大寺町



技と感覚を磨き合う

体育の授業

保健体育科指導員

浅井 貞人

「ああ、こういう感じか」つぶやきながらA男の目が輝く。だるま転がりをしていた彼が、仲間のアドバイスをもとに、こつに気づいた瞬間。アドバイスしたB子も、嬉しそうだ。

C小学校で参観したのは、バランスやボール捕りなど、各グループが異なる運動に取り組み、こつを見出しながら技と身体感覚を磨いていく「体づくり運動」の授業だった。

運動量を保障するための時間と空間が確保された場では、自分の高めた動きに繰り返し挑戦し、運動感覚を磨く子供たちの姿があった。

グループ編成にも工夫があった。グループを組み替えながら学びを共有する「ジグソー学習」が取り入れて



最高のキャプテン

矢作北中 青木 佑吏

残り一分。十点差で負う試合展開。逆転は、厳しい状況だ。でも、誰一人としてあきらめていない選手はいない。必死に追い上げるも、結局五点差で試合は終了。バスケットボール部の最後の夏は、終わった。

このチームとの出会いは、一年半前になる。大会はおろか、練習試合でも勝つことがない。しかし、誰にも負けない素直さがあり、勝ちたいと切に願う子たちだった。なかでも、A子は負けず嫌いで責任感が強く、仲間を引っ張るリーダーシップをもっていた。私は、彼女を新チームのキャプテンに任命した。

しかし、勝てないチームだったせいか、A子のプレーには、いま一つ自信が見られなかった。また、自分や仲間のプレーがうまくいかない、といういららし、感情的な言葉が出てしまうこともあり、チームの雰囲気

悪くなることもあった。

そんなA子を、仲間のことを思っ
て、優しい言葉も厳しい言葉もかけ
られるキャプテンになってほしい、
自信をもってプレーできる、チームの
エースに育てたい、と思った。

ある日の練習でのこと。決めるベ
きシチュートがさっぱり決まらない。
チーム全体に集中力がない。こんな
練習では意味がないことを、生徒た
ちに気付いてほしいと願い、練習を
打ち切ることにした。終了の挨拶を
して体育館を出る私に、A子が駆け
寄る。私は、A子に問いかけた。

「これまで、平日も休日も、休みたい
ときも遊びたいときも、我慢してこ
までやってきたはず。それなのにチ
ームがこの状況で、悔しくないのか。」

A子は、泣きながらうなずいた。
翌日、A子は涙を流しながら部員
と向き合い、自分の思いを伝えた。

「私は、みんなと一緒に勝ちたい。
このメンバーで目標を達成したい。
だから、みんなで声を出し、もう一度
集中して、練習を始めたい。」

A子の思いを部員は真剣に受け止
め、練習の空気は変わっていった。

その日から、A子はキャプテンと
しても、プレーヤーとしてもチーム
のことを第一に考えるようになった。
練習試合でも、勝てる試合が少しず
つ増え、A子も、そしてチームも、
強くなってきていることを感じた。

市長杯大会の前日、練習の最後に、
選手たちに言葉をかけた。

「ここまでよく頑張ってきた。ベスト
は尽くした。後は、思い切りプレー
を楽しもう。」

A子は、大きくうなずいた。

結局、市長杯は、一勝もできない
まま終了。だが、自信をもって強気
で立ち向かうA子の姿があった。何
より、A子は、最後まで立派にキャ
プテンの務めを果たした。自らの悔
しさを抑え、すぐに仲間を整理させ、
応援席に心のこもった挨拶をした。
「やりきれたので、悔いはないです。
このチームで、皆や先生と一緒にや
つてきて、本当によかったです。」

すべてが終わり、A子は私にそう話
した。そして、言葉にできない思い
がこみ上げ、頬に光るものがこぼれ
落ちた。

この出会いに感謝し、私もまた、
前に進みたい。



あった。この学習では、「背中を丸
めると転がりやすいよ」など、初め
のグループで得た気付きを、もとの
グループに戻って仲間と教え合う。
このような場の設定をすることで、
伝える活動に対する必要感が高まり、
運動経験から生まれた気付きを、言
葉や身体で主体的に教え合う姿に
ながっていた。

さらに、「ここ、どうなってる」
「どんな感じかな」など、よい動き
をする子供に問いかけることにより、
動きに対する個々の気付きを、言語化
させていくD教諭の言葉がけがあっ
た。この伝える活動を促す手立てに
より、子供たちは運動感覚を磨き合
い、仲間同士で気付きと動きを共有し
ていく姿が引き出されていった。

これからの体育の学習には、技や
運動感覚を高めつつ、子供自身が課題
解決に向けて必要なことに気付くよう
な授業展開が求められる。そのため
には、子供の「もっとやりたい」「もっ
と知りたい」を可能にする教材を創造
するとともに、運動量を十分に確保
した場を設定することや、子供の気付
きを引き出す適切な言葉がけが不可
欠である。

子供の笑顔を支え続けて



ハートピア岡崎(竜美・上地)

▲ ふれあいルーム

「ハートピア岡崎」は、昭和六十年、本宿学区に、不登校児童生徒の支援と学校復帰を目的に開設された。平成二十七年九月には、「ハートピア上地」が岡崎市総合学習センター一階に開所され、これまでの「ハートピア」を「ハートピア竜美」と改め、二つの市適応指導教室を合わせ、「ハートピア岡崎」とした。二つのハートピア設置により通所を希望する児童生徒、家庭や学校からの要望に今まで以上に応じることができるようになった。

現在ハートピア岡崎では、市内の小中学校に在籍する子供で、学校を休みがちな子供、または、その傾向にある子供及びその保護者に対して、学校教育との連携をもとに適正な相談や助言、及び支援を行い、学校復帰を図っている。通所が可能な子供に対して、学校生活への適応性を高めるために、さまざまな自立支援、学習支援を行っている。その支援は、一人の職員が三、四人の子供を担当する。ハートピア指導アドバイザーである臨床心理士の助言を得ながら、一人一人に応じた温かな指導を心がけている。また、学校の不登校担当者や担任と連絡を取り合い、子供の状態を共通理解して、多方面から支えることができるように努めている。ハートピア岡崎におけるさまざまな活動が、子供たち本来の笑顔を支えている。今後、さらなる登校支援の充実のため、学校とハートピア岡崎が力を合わせて、子供たちの成長を見守り、学校復帰を実現していきたい。

登校支援を行う市適応教室 「ハートピア岡崎」

ハートピア竜美

(岡崎市教育相談センター 2階)
〒444-0876 岡崎市竜美北二丁目6番地1
TEL 0564-71-3207

《対象中学校区》

甲山中・竜海中・葵中・城北中・常磐中
岩津中・矢作中・矢作北中・新香山中・北中

ハートピア上地

(岡崎市総合学習センター 1階)
〒444-0823 岡崎市上地三丁目12番地1
TEL 0564-58-4831

《対象中学校区》

美川中・南中・福岡中・東海中・河合中
六ツ美中・竜南中・六ツ美北中・額田中・翔南中

手を取り合って 心の充電



▲ 実習室での個別学習

職員に見守られながら、各自の課題に真剣に取り組み、学力向上をめざす。



▲ コミュニケーションづくり

友達と協力し、調理実習を行うこともある。人と関わるよさを味わう。



▲ 社会体験活動への参加

工場見学など、所外の活動も行い、通所生の社会体験の機会を作っている。



▲ 遊びを通じた人間関係づくり

教育相談センター3階のプレイルームでは、通所生が共に汗を流している。



▲ 体育室を利用した活動

午後の活動タイムでは、体育室を利用して、体を動かし活動している。



▲ 自然体験の森での散策

自然と触れ合い、小集団での関わり合いを通して、心の安定を図る。



▲ 行事に向けた準備

7月恒例の七夕会に向けて、通所生と職員が一緒になって飾りつけを行った。



▲ 造形教室での制作活動

おかざき世界子ども美術博物館で、制作活動に取り組み、芸術に触れる。



▲ 公園を利用して体を動かす活動

午後の時間は近くの公園へ行き、通所生や職員と一緒に交流して触れ合う。

専門的な立場から

臨床心理士として、学校復帰に向けての自立支援と指導を行っています。ハートピアでは、小集団での人間関係づくりに力を入れ、通所生のコミュニケーション力の育成を図っています。通所生同士が、さまざまな活動を通して、人と関わる中で、エネルギーを蓄え、一歩踏み出してくれることを期待して、今後も温かく見守り応援していきたいと思っています。

ハートピア指導アドバイザー

臨床心理士 宇野 みなみ 氏

通所生の1日(例)

- (1) 通所 …………… 9:30～10:00
- (2) 清掃・休憩 …………… 10:00～10:20
- (3) 学習タイム …………… 10:20～12:00
自分の進度にあった学習を進めている。
(個人・グループ)
- (4) 昼食 …………… 12:00～12:45
家から用意してきた弁当を食べる。
- (5) フリータイム …………… 12:45～13:00
音楽鑑賞・卓球・読書等で過ごす。
- (6) 活動タイム …………… 13:00～14:50
屋内外で体を動かし、心のエネルギーを蓄える。
- (7) 帰宅準備・帰宅 …………… 14:50～15:00

ハートピアの思い出

ハートピアでは行事がたくさんあります。社会見学やクリスマス会、みんなで流しそうめんをしたり、カレーライスを作ったり。近くの公園での外遊びは、初めての子でも楽しく遊ぶことができます。

私は今、楽しい高校生活を送っています。それは、ハートピアでできた友達と先生たちの支えがあったからだと思っています。ハートピアに出会えて、私は自信が持てました。これからもその自信を支えにして、保育士になるという夢に向かってチャレンジしていこうと思っています。

お知らせ

● 教育最新情報

◆平成28年度全国学力・学習状況調査における岡崎市児童生徒の結果について

1 調査分析概要

(全国の平均正答率と比較して) ①全体の様子

岡崎市内の小中学校はともに、「活用」に関する問題において、全国及び県の平均正答率を上回っている。

小学校においては、国語、算数の「知識」に関する問題が「よくできている」状況である。中学校においては、「知識」「活用」に関する問題で、国語が「よくできている」状況であり、数学は「たいへんよくできている」状況である。

(2)小中学校別各教科「知識」「活用」に関する問題の様子(下表)

(3)岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

①国語、算数・数学における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係を詳細に分析し、学校での授業

や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握する。
②①の分析結果を受け、その授業改善案等を教育委員会が



各学校へ伝え、必要に応じて担当指導主事が学校訪問を行い、改善状況を確認したり、指導したりする。
③各学校において行っている「教育診断アンケート(学校評価)」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むよう指示する。
④教育委員会と学校は、家庭

や地域と連携しながら、子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めていく。
④留意点
①この調査は、子供たちの学習状況の改善を図るために参考とするものである。
②この調査で測定した学力や学習状況は、特定の一部分である。
③学校では、成果と課題を把握

【小学校6年生】

科	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	よくできている ・目的に応じて、図と表とを関連付けて読む力に優れている。 ・収集した情報を関連付けながら、話し合い活動を行うことができる。 ・登場人物の人物像について、複数の叙実を基に捉える力がある。	できている ・本や文章を比べて読むなど、効果的な読み方を工夫する力に優れている。 ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する力がやや弱い。 ・グラフを基に、分かったことを的確に書く力が弱い。
算数	よくできている ・繰り返りのある減法や約分の必要な分数の除法の計算をする力に優れている。 ・場面の状況を適切に読み取り、全体の人数を式にあらわすことができる児童が多い。 ・割合を百分率で表し、基準量と比較量の関係を表す力がやや弱い。	できている ・正方形に内接する円の半径について正しく理解している児童が多い。 ・角の大きさを基に、示された図と式を関連させ、式の意味の説明を記述する力が弱い。 ・示された式の中の数値の意味を理解し、それを言葉や数を用いて記述する力が弱い。
学習状況	・「朝食を毎日食べる」児童は、「食べない」児童に比べ、国語の正答率は20.0ポイント以上、算数の正答率は15.0ポイント以上高い。規則正しい食生活を送る児童ほど、高い正答率を得ている。 ・「友達との約束を守る」児童は、「守らない」児童に比べ、国語の正答率は30.0ポイント以上、算数の正答率は20.0ポイント以上高い。自尊意識や規範意識が高いことが、正答率の高さに関係している。 ・平日、テレビゲームやスマートフォンの使用時間が長い程、正答率は低い。特に、4時間以上の児童は、1時間未満の児童に比べ、国語の正答率は15.0ポイント、算数の正答率は13.0ポイント低い。 ・「家の人と学校での出来事について話をする」児童は、「話をしない」児童に比べ、国語の正答率が18.6ポイント、算数の正答率が12.8ポイント高い。	

【中学校3年生】

科	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	よくできている ・文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりする力に優れている。 ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解したり、文脈中の語句の意味を理解したりする力が優れている。 ・辞書を活用し、漢字が表す意味を正しく捉えることのできる力がやや弱い。	よくできている ・文章を目的や必要に応じて、要約したり、要旨を捉えたりする力に優れている。 ・目標に応じて必要な情報を読み取る力に優れている。 ・複数の資料から適切な情報を得て自分の考えを具体的に書く力が弱い。
数学	たいへんよくできている ・加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、決まりに従って計算する力に優れている。 ・多角形の外角の和や平行線と角の性質を用いて、角の大きさを求める力に優れている。 ・垂線の作図方法について理解している生徒が少ない。	たいへんよくできている ・問題場面における考察の対象を明確に捉える力に優れている。 ・与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する力に優れている。 ・図形の証明について、筋道を立てて、証明する力が弱い。
学習状況	・「朝食を毎日食べる」生徒は、「食べない」生徒に比べ、国語の正答率は、15.5ポイント、数学の正答率は23.9ポイント高い。生活習慣の確立が、高い正答率に関係している。 ・「学校の規則を守る」生徒は、「守らない」と回答した生徒より、国語の正答率が14.2ポイント、数学の正答率が16.2ポイント高い。規範意識が高い生徒ほど各教科の学力調査で高い正答率を得ている。 ・平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が長い程、各教科の正答率が低い。特に、30分未満の生徒は、4時間以上の生徒に比べ、国語の正答率は125ポイント高く、数学の正答率は18.9ポイント高い。	

し、授業改善に努める。
④家庭では、得意なこと・不得意なことを知り、また生活習慣の充実を図るなど、児童生徒が学習に意欲をもって取り組める励ましや環境づくりをお願いする。

◆岡崎市教育研究論文募集

平成28年度岡崎市教育研究論文を次のとおり実施をする。

【趣旨】

岡崎市立幼稚園、小・中学校教職員の日頃の教育実践及び教育研究の成果を広く募り、教職員の研修と資質向上及び学校教育の健全な発展を図るとともに、その努力を顕彰する。

【部門】

- ・第一部門…個人研究
- ・第二部門…共同研究

【論文の体裁】

- ①字数 一八二〇〇字以内(図表、写真等の資料は、本文の範囲内に入れる。)
- ②用紙・様式 A4用紙、40字×35行13枚以内

- ・(余白天地左右20ミリ以上)
- ・文字は12ポイント以上
- ・(余白への資料添付は禁止)

【留意事項】

- ①体裁の違うものは審査の対象外となるので、印刷状態で確認する。論述部分については、テキストボックスなどの方法で文字数を増やさない。
- ②写真やノートのコピーなど

- を、本文の枠内以外(目次等)に載せない。添付資料は、判読しにくくなるほど縮小しない。
- ③未発表のものとする。(継続研究は可)
- ④先行文献を引用方法する場合は、引用が明確になるようにする。
- ⑤個人に関する情報を論文に記載する場合には、「児童A」等と表記し、特定の個人が識別されないようにする。写真は資料として使用する場合には、保護者の同意を得る。

【提出期限】
平成二十八年十一月二十二日(火)午後五時



▲ 優秀論文展示中 (教育研究所)

● 表彰

- ◆国民体育大会
 - 陸上
 - ・少年女子1000m
 - 6位 城北中 高須鮎香

- ・成年少年女子共通
 - 4×1000mリレー
 - 4位 城北中 高須鮎香
- ◆愛知県中学校団体卓球選手権大会
 - 男子
 - 3位 常磐中
 - 女子
 - 3位 北中

- ◆愛知県剣道段別選手権大会
 - 中学2段の部
 - 3位 矢作中 小林秀汰

- ◆全国都道府県対抗中学バレーボール大会愛知県代表選手最終選考大会
 - 優秀選手賞(ベスト12)
 - 北中 藤嶋くる美

- ◆愛知県3種サッカー地区リーグ優勝大会
 - 準優勝 甲山中学校

- ◆CBCこども音楽コンクール地区予選会
 - 小学校合唱部門
 - 優秀賞(中部決勝大会出場) 梅園小学校 根石小学校
 - 矢作東小学校 矢作南小学校
 - 中学校合唱部門
 - 優秀賞(中部決勝大会へ出場) 新香山中学校B 竜海中学校
 - 優秀賞 新香山中学校A 矢作中学校

- 中学校重唱部門
 - 優秀賞(中部決勝大会出場) 竜海中学校B
- 小学校器楽部門
 - 優秀賞(中部決勝大会出場) 竜美丘小学校
- 中学校重奏部門
 - 優秀賞(中部決勝大会出場)

- 中学校重奏部門
 - 優秀賞(中部決勝大会出場)

- 中学校重奏部門
 - 優秀賞(中部決勝大会出場)

- 中学校重奏部門
 - 優秀賞(中部決勝大会出場)

- 福岡中学校B 竜海中学校A
 - 中学校合奏第一部門
 - 優秀賞(中部決勝大会出場) 城北中学校
 - 管楽合奏部門
 - 優秀賞(中部決勝大会出場) 竜海中学校 北中学校

- ◆日本学校合奏コンクール
 - グランドコンテスト(合奏部門)
 - 金賞 美川中
 - 銀賞 福岡中

- ◆愛知県マーチング大会
 - パレードコンテスト部門
 - 銀賞 南中

- ◆小学校バンドフェスティバル東海大会
 - マーチング・座奏・ミックス部門
 - 銀賞 竜美丘小

- ◆愛知県教育文化奨励賞
 - 梅園小 音楽部

- ◆フラワー・ブラボー・コンクール秋花壇
 - 入賞校
 - 優良賞 三島小学校 岡崎小学校

- ◆フラワー・ブラボー・コンクール西三河地方推進委員会
 - 学校花壇奨励賞
 - 形埜小学校

- 地域花壇優秀賞
 - 形埜小学校

- ◆少年の主張愛知県大会
 - 優秀賞(愛知県青少年育成県民会議会長賞) 新香山中 田中涼香

- ◆全国ひらがな・かきかたコンクール
 - 四年生の部
 - サファイア賞 岡崎小 安藤青空

- ◆第60回愛知県統計グラフコンクール
 - 第二部(小学校三・四年生)
 - 金賞 井田小 松本 はな
 - 竜美丘小 山本 結月
 - 三島小 判治 徹哉

- 第三部(小学校五・六年生)
 - 金賞 竜美丘小 山本 愛結
 - 三島小 判治 孝哉
 - 三善部小 中村 碧
 - 広幡小 奥出 理仁
 - 広幡小 佐野 文香
 - 井田小 松木 遥大
 - 大門小 加藤 咲良
 - 連尺小 平林 響
 - 井田小 則包 真優
 - 井田小 甲斐梨央奈
 - 竜美丘小 京田 彩花
 - 竜美丘小 西島 沙羅
 - 竜美丘小 吉田 嶺介
 - 小豆坂小 横澤 真帆

- 第四部(中学生)
 - 金賞 竜海中 鈴木 麻尋
 - 翔南中 村瀬 萌衣
 - 竜海中 渡邊 理沙
 - 翔南中 尾崎亜依里
 - 城北中 長谷川リンカ
 - 翔南中 大野さつき
 - 竜海中 高嶽 真菜
 - 竜海中 石原 有紗
 - 竜海中 長嶺 桃子
 - 甲山中 加島 光稀

- パソコン統計グラフの部(小学生以上)
 - 金賞 新香山中 中根 有彩
 - 新香山中 石川 稀理
 - 河合中 内田 結稀
 - 河合中 近藤 萌
 - 河合中 畔柳 愛海
 - 新香山中 中山 蒼志
 - 井田小 平野 結唯
 - 河合中 阿部 航
 - 河合中 細 英士朗
 - 南中 砂田 空良
 - 新香山中 高須 光里
 - 北中 直井 優弥
 - 北中 伊藤 稜
 - 北中 渡辺 陽生
 - 北中 佐々木 瞭多
 - 北中 柴田 和歩
 - 北中 高井 裕喜
 - 北中 神田奈那子
 - 翔南中 堰合美香穂

- ◆愛知県防火作品展
 - 習字五年の部
 - 愛知県消防設備安全協会理事長賞(準特選) 富田涼花

- ◆交通安全功労者等表彰式
 - 交通安全優良校 六ツ美南部小

- ◆アジア国際子ども映画祭
 - 大野市教育長賞 武内 祐
 - 六ツ美北部小 一ノ瀬 旺
 - 結の故郷賞 柴田あかり
 - 六ツ美北部小

- 統計グラフコンクール指導者表彰
 - 梅園小(団体) 畑 小普
 - 竜美丘小

- 統計グラフコンクール指導者表彰
 - 梅園小(団体) 畑 小普
 - 竜美丘小

・カ
ツ
ト
葵中 小田薫子

縄文土器の野焼き (昭和61年)

写真提供：大門小学校

一晩中、交代で火の番をしながら焼きあげた縄文土器に、子供たちの歓声があがった。

昭和六十一年、当時の六年生は、社会の歴史学習と、図画工作の「おかざきつ子展の作品作り」を兼ねて、縄文土器作りに挑戦した。焼きあがった作品のなかには、割れてしまったものもあったが、子供たちはそのかけらを一つ残らず探し集め、つなぎ合わせて、一生の思い出となる作品を完成させていった。

こうした活動を通して、教科横断的、問題解決的な体験学習が、自主的、主体的に学ぶ子供たちの姿を生むことが明らかにになった。その意義が、平成十二年から段階的に始まった「総合的な学習の時間」につながった。そして、生きる力を身に付けていく場として、今日に至っている。



鳥肌が立つような歌声が響き渡る体育館。合唱コンクールでは、各学級が、練習の成果を披露する。彼らの歌声からは、各学級のドラマが見えてくる。このドラマを、彼らの心の財産とすべく、教師は支援の手を緩めず、最後まで寄り添い続ける。

どホ ツ

霜月



(ザクロの実 三島小)

本気の思いは、一緒にいる人に伝わるものだ。この子の未来が、幸せであればと本気で願えばこそ、心に届き、力となって蓄えられていく。

今日も、ハートピア岡崎で、職員や保護者の子供に向けた本気の思いが、笑顔を支え続けている。

続けるということは、新しいことを始めるときと同じくらい難しい。挑み続けるその人は、「子供たちの喜ぶ顔が、エネルギーの源だよ」と笑った。

朝焼けを待たず、製麺所の朝が、今日も始まる。子供たちの笑顔を願う人が、ここにもいた。



*人をつくる言葉 大村 智
毎日新聞出版社 ￥1,000

心に残った一文
人生は、ほんの少しの言葉で
豊かになるか、貧しくなるか決まる

2015年、ノーベル生理学・医学賞を受賞した著者は、研究者であるとともに、人材育成にも力を注ぐ優れた教育者でもある。誰にでもチャンスを与え、支援を惜しまずに優秀な人材を輩出してきた。そんな著者が、人生の指針であり行動規範となった言葉を、書き溜め綴った本だ。

「言葉は人の生き方を決める」とあり、人生を考えるとときや、子供たちを導き育てるなかでつまずいたときに心を動かされ、ヒントとなる言葉がこの本から見つかるはずである。

*娘に語るお父さんの歴史 重松 清
新潮社 ￥460
*思考力の方法 聴く力篇 外山滋比古
さくら社 ￥1,400
*たどりつく力 フジコ・ヘミング
幻冬舎 ￥1,100
上地小 三浦 敦子